

[ホーム](#) > [長崎大学について](#) > [大学からのお知らせ](#) > [ニュース&トピックス一覧](#) > 原爆後障害医療研究所の高村昇教授が台湾の馬英九總統と懇談

## 長崎大学について

[学長メッセージ](#)[大学からのお知らせ](#)[大学案内](#)[理念と特色](#)[ロゴマーク・学歌など](#)[寄附金・共同研究・受託研究](#)[情報公開・個人情報保護](#)[数字で見る長崎大学](#)[大学点検・評価](#)[卒業生向け情報](#)[国際戦略](#)

## 原爆後障害医療研究所の高村昇教授が台湾の馬英九總統と懇談



2013年07月12日

6月24日、原爆後障害医療研究所の高村昇教授が、6月24日に台北市で行われたセミナーにおいて、放射線被ばくと健康影響、特に一昨年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故後にとられた被ばく低減措置と実際の住民の被ばく線量、それに伴う健康影響の可能性についての講演を行いました。

この講演会には、台湾の大学研究者、電力関連企業関係者、報道関係者らが参加し、講演後の質疑応答、パネルディスカッションにおいては、福島の現状、今後の予測について多くの質問が寄せられました。

翌25日、高村教授は前日の講演会の内容報告と、特に放射線被ばくと健康影響に関する東京電力福島第一原子力発電所事故の現状報告を行うため、台湾の總統府を訪問し、馬英九總統と面会しました。

面会では特に、馬總統から事故におけるこれまでの犠牲者についての質問があり、高村教授からは事故による直接の死亡者が出ていないものの、突如の避難や、その後長期に続く避難生活による被災関連死が大きな問題であることが報告されました。

また、台湾の大学関係者からは、被ばく医療について日本の専門家による研修をぜひ実施してほしいという要望があり、今後長崎大学として積極的に取り組むことで合意しました。



馬英九總統と高村昇教授



總統府では1時間ほど懇談しました。

[このページの先頭へ](#)
[プライバシーポリシー](#) | [サイトポリシー](#) | [免責事項](#)
[ホーム](#) | [長崎大学について](#) | [学部・大学院・附属施設](#) | [修学案内](#) | [学生生活](#) | [研究活動・産学官連携](#) | [就職情報](#) | [入試情報](#) | [メールマガジン](#)

国立大学法人 長崎大学:長崎大学広報戦略本部 〒852-8521 長崎市文教町1-14  
Copyright© 2010 Nagasaki University, All Rights Reserved.